清　泉

令和５年７月６日
昭島市立清泉中学校
校長　　佐藤　晴美

昭島市立清泉中学校　〒196－0024　昭島市宮沢町1－9－1
電話042－541－0762　FAX042－541－6869　http://www.city.akishima.ed.jp/～seisen/

「アウトプットができる貴重な機会」

「小学校１，２年のころは教えることができたけれど、高学年になるとね、教えられないわ……」という会話が聞こえてきました。また、別の方からこんな話も聞きました。お子さんが、「『百』という字は『お』って読むよね？」と質問をしてきたそうです。母は（なぜ『お』なんだ？）と思っていると、続けて「だって、八百屋っていうじゃん。だから、国語の授業で『百』の読み方は『お』もありますって言ったら、先生が明日まで待って、だって。」次の日、お子さんは「先生がね『八百屋』っていうまとまりの読み方だから、『百』だけだと『お』って読まないんだよ」っと、自信満々の表情で親に説明をしてくれました。教科など学校で行う学びについて「教える」ことはその専門である学校（教師）が責任をもって授業を行っていきます。その定着やさらなる深化（子どもの興味・関心の広がりを含む）しようとするお子様の姿を感じていただければと思います。それは「アウトプット」の機会です。例えば、小学校の宿題で「音読」があります。「大きなかぶ」や「スイミー」など、何回もお子様の音読を聞いて、コメントを書くなどした記憶はないですか。授業で習った漢字を読み、さらには授業で学習した登場人物の気持ちを表そうと一生懸命に読む姿、まさに「アウトプット」です。中学生は小学生のように分かりやすくはないですが、中学生なりに表現をします。発信する「相手」がいることで、「相手意識」をもち、伝わるように話したり、行動したりする。これが「学び」の質を上げます。無理やりではなく、何気なく表現されるお子様の「アウトプット」の内容を感じて、聴いて、肯定的に受け止め、一緒に考えてみてください。

≪アウトプットと家族との関わりの事例≫
- □兄・姉が妹・弟に教えている〔思考の整理〕
- □晩御飯準備中の親に、その日学校で学習したことをひたすら話している〔反復による定着〕
- □音楽の歌のテスト前に「花（春のうららの　隅田川～♪）」を練習しているのを聴いて、おうちの人も一緒に歌ってしまった〔家庭でのコミュニケーション〕
- □地震の時、親はただただ立ち尽くしていたが、子どもたちは机の下で身を守っていた〔実生活に直結〕

<u>ある本から（英国の公立中学校に入学した息子と家族の話）</u>

母　：「試験って、どんな問題が出るの？」
息子：「めっちゃ簡単。期末テストの最初の問題が『エンパシーとは何か』だった。……」
父　：「ええっ。いきなり『エンパシーとは何か』とか言われても俺はわからねえぞ。それ、めっちゃディープっていうか、難しくね？で、お前はなんて答えを書いたんだ？」
息子：「自分で誰かの靴を履いてみること、って書いた」

＊エンパシー（empathy）：「共感」「感情移入」または「自己移入」

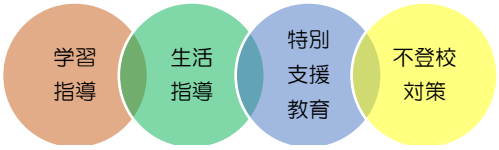
◇これだけでは何の話かよくわからないと思います。この息子のエンパシーの答えは英語の定型表現であり、「他人の立場に立ってみる」という意味だそうです。この本は子どもが学校などで感じたことを親に話しながら、親も一緒に考えていくストーリーです。

『ぼくはイエローで　ホワイトで、ちょっとブルー』ブレイディみかこ著（新潮社）

☆今回ご紹介したブレイディみかこ著の『ぼくはイエローで　ホワイトで、ちょっとブルー』はとても読みやすく、子どもの貴重な感じ方や考えに触れることができます。（図書室、校長室にもおいてあります）

清泉中ブロック共同宣言 2023

〇清泉中ブロックの４校（清泉中・中神小・光華小・成隣小）は、地域で一貫した教育を推進するため、４つの視点で共同宣言を掲げます！<u>※詳細は、学校ホームページをご覧ください。</u>



清泉中学校　佐藤　晴美
中神小学校　松井　　茂
光華小学校　眞砂野　裕
成隣小学校　松川　靖弘